

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 北小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

| 主として「知識」に関する問題(A)   | 主として「活用」に関する問題(B)   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul> | <ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul> |

#### (2) 児童質問紙調査

| 児童質問紙調査                       |
|-------------------------------|
| ○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

| 本年度の結果 | 国語A   |       | 国語B   |       | 算数A   |       | 算数B   |       |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
|        | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市     | 10.4  | 70    | 5.6   | 56    | 12.1  | 76    | 5.8   | 45    |
| 全国     | 10.9  | 73    | 5.8   | 58    | 12.4  | 78    | 6.1   | 47    |

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

|     |             |   |
|-----|-------------|---|
| 国語A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には、全国平均正答率をやや下回っていたが、昨年度よりわずかに上昇していた。</li> <li>書く力を問う問題に課題があり、日記や作文など書くことを習慣化する必要がある。</li> </ul>      |
|     | よくできた問題     | <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を読むことができていた。</li> </ul>  |
|     | 努力が必要な問題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ字を読んだり、書いたりする設問では、無回答が多く課題が見られた。</li> </ul>   |
| 国語B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には、全国平均正答率と同程度であった。</li> <li>文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。</li> </ul>                          |
|     | よくできた問題     | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしなが読むことができていた。</li> </ul>   |
|     | 努力が必要な問題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて、グラフや表と関連付けながら、自分の考えを書くことについて無回答率が高く、正答率も低かった。</li> </ul>                                       |
| 算数A | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には、全国平均正答率を上回り、昨年度より上昇している。</li> <li>「数と計算」「量と測定」「数量関係」の設問ができていた。</li> <li>「図形」の設問に課題があった。</li> </ul> |
|     | よくできた問題     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「少数や分数の計算」や「全体の人数を式に表す」ことができていた。</li> </ul>  |
|     | 努力が必要な問題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「図形の構成要素に着目して、図形を構成することや、「割合の意味を理解すること」に課題がある。</li> </ul>  |
| 算数B | 全体的な傾向や特徴など | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的には、全国平均正答率をやや下回っていた。</li> <li>活用問題になると「数量関係」の設問に課題が見られた。</li> </ul>                                   |
|     | よくできた問題     | <ul style="list-style-type: none"> <li>「きまりを見つけて式に表す」ことや、「示された事柄が正しくない理由を記述すること」ができた。</li> </ul>  |
|     | 努力が必要な問題    | <ul style="list-style-type: none"> <li>「正方形に内接する円の半径について理解することや、「位置関係を把握して式に表す」ことに課題が見られた。</li> </ul>   |

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

| 質問紙調査の結果分析  |
|---|
| <p>○学習の基盤となる生活習慣や規範意識、自尊感情などが全国の平均に比べて高く、安定した生活を送っている児童が多い。</p> <p>○学習習慣については、「自分で計画を立てて勉強している」が全国の平均をやや上回っているが、「学校の宿題をしている」や「学校の授業の予習をしている」がやや全国を下回っている。今後は学習時間の確保など学習習慣の見直しが必要である。</p> <p>○読書については、「読書が好きだ」と答えている児童が全国の平均をこえているが、「1時間以上読書をしている」児童は、全国の平均を下回っており、家庭と連携して読書習慣を身に付けさせる必要がある。</p> <p>○学校での学習は、「めあて」を立て、話し合い活動を通して、授業の最後には振り返りをする学習スタイルが定着していると言える。しかし、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることや、話し合い活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることが難しいと感じている児童が全国の平均を上回っており、授業改善が必要である。</p> |

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

|  |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○各学級において、児童の発達段階を考慮し、ペア学習や班学習など、自分の考えを他の人に説明したり、他の人の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりする活動を授業の中で積極的に取り入れる必要がある。</li> <li>○各学級において、自分の考えがもてるような発問の工夫をしたり、1時間の授業の中に自分の考えを書くことを必ず位置付けたりするなど、授業改善を行う。</li> </ul> |
|--|

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

|   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>○基礎基本を定着させるためにも、「北小倉小学校家庭学習の手引き」を作成し、保護者への啓発をするとともに、チャレンジハンドブックを活用したり、宿題の出し方工夫したり、家庭での学習の在り方を改善できるようにする。</li> <li>○読書に対する高い意欲や関心を生かし、家庭でも読書をする時間をもてるように「読書の日」を設定するなど、家庭と連携して取り組む。</li> </ul> |
|---|